
泣きたくなる朝の世界

綾立かおる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

泣きたくなる朝の世界

【Nコード】

N1954N

【作者名】

綾立かおる

【あらすじ】

あたしの心の中で暴れるそいつ……

あたしの心の中で、混沌という名のケモノが暴れている。

そいつはあたしの心を引つ掻き回す、ぎゃーぎゃーと喚き散らす、内側から外に向かってガンガンと蹴りを入れる。

そいつが暴れる度、あたしは顔をしかめる。

そいつとの出会いがいつなのか、あたしには分からない。生まれつきあたしの中に存在していたのかもしれないし、何らかの形で、たまたまあたしの中にするりと潜り込んだのかもしれない……。

あたしの中で暴れているそいつのことは、あたしにしか見えないし、聞こえない。あたし以外にそいつの存在を知るものはいない。

でも一つだけ確かなものは、そいつが暴れると、あたしは無性にイライラする。

それは、この世界の醜さに共鳴しているのかもしれない。

あたしは潜り込んだ布団の中から、枕元の目覚まし時計に目を向けた。針は4時10分を指していた。

カーテンの向こう側にある朝陽の光は、うつすらとあたしの部屋を照らしている。季節は夏だから、4時でも外は充分に明るい。

遠くの方で微かに聞こえる小鳥のさえずり、目覚まし時計が時を刻む針の音、あたしの心臓の鼓動。混沌というケモノが動き出そうとしている音。

あたしはふと窓の外に目を向けた。

外の世界は、怖いくらいに静かだった。

あたしの心の中はこんなにもざわめきはじめようとしているのに、朝の世界は泣きたくなるくらい静かだ。

あたしの心がどんなにかき乱されても、朝は静かにやってくる。た

とえあたしがそれを望まなくても、朝はそんなことは気にも留めない。

あたしは深く深呼吸をした。

心の中のそいつが、少しずつ勢いを無くしていくのが分かった。

「あたしの心の中で暴れてたのは、あたしだったんだね」

あたしはポツリと呟いた。

あたしの瞳から、一筋の涙が零れ落ちた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1954n/>

泣きたくなる朝の世界

2011年1月4日02時32分発行